

静岡大成高等学校第20回卒業証書授与式 学校長式辞

日ごとに、春の訪れを感じさせる季節となりました。本日、静岡大成高等学校、第20回卒業証書授与式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。また、この3年間、本校の教育方針にご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

151名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。進学をして学問を究める人、専門知識を身につける人、就職して社会人として活躍する人、進む道は違いますが、必ず目標を持ってスタートラインに立ってください。

皆さんは、新型コロナウイルス感染の被害を、最も多く受けた学年だったと思います。中学3年生では、修学旅行、中体連、卒業式など、中止や変更を余儀なくされ、大変残念な思いをしたことでしょう。高校に入っても、次々と流行の波が押し寄せ、緊急事態宣言が出される中で、授業、部活動、行事などに多くの制約を受け、物足りない思いをしたのではないのでしょうか。しかし、ぜひ皆さん、これらの経験をプラスに捉えてください。たとえば桜凧祭では、制約の中でできることを皆で考え、工夫して良い作品を作り上げることができたと思います。何年か後に、中学・高校時代を振り返ったときに、特別で貴重な経験だったと、自慢できる時が来ることでしょう。

さて、18才の成人となった、あるいは成人となる皆さん、高校までは親や先生に守られてきましたが、これからは一人の社会人として、自分で歩いていかなければなりません。私がこれまで皆さんに言ってきた3つのコンピテンシー、「自律」、「対話」、「行動」は、むしろこれから皆さんが社会人として歩いて行くための指針として考えたものです。

今から26年後の2050年には、日本の人口は1億人を割ると予測されています。先日の報道では、昨年、2023年に日本で生まれた子供の数は、75.8万人と8年連続で減少し、過去最少となり、減少傾向はさらに加速しているようです。一方で、65歳以上の高齢者数は増加の一途をたどり、2050年には全人口の4割に達する予想です。その頃皆さんは40代、社会の中心となる年代です。日本の社会が、より良い社会となるために、今の社会をどう変えていくか。皆さん一人ひとりが考えてください。政治や経済のことについて、周りの人たちと話し合ってみてください。選挙にも必ず行き、しっかりと自分の意思を表明し、社会の一員としての責任を果たしてください。皆さんの「自律」、「対話」、「行動」を今後も期待しています。

最後に、皆さんに言葉を紹介したいと思います。それは「あきらめなければ、あきらめたやつに勝てる」「あきらめなければ、あきらめたやつに勝てる」です。これは、1

1992年のバルセロナオリンピック、1996年のアトランタオリンピックと、2大会連続でメダルを獲得した、女子マラソンランナーの有森裕子さんが言った言葉です。私は、マラソンで、苦しくて辛いときに、この言葉を思い出しています。誰かに勝つためではなく、最後まで走れるように、自分自身を励ますために使います。解釈の仕方はそれぞれでよいと思いますが、皆さんが、あきらめないための呪文として使ってくればとても嬉しく思います。

では、卒業生のみなさん、これからのますますのご活躍を祈願し、式辞といたします。

令和6年3月1日

静岡大成高等学校 校長 山田 隆司